

西第一町内会 お達者クラブの紹介



西第一町内会のお達者クラブは、毎月第二・四火曜日の二回、町内会実施しています。活動内容としては、市の出前トーナメント・健康体操・卓球バレー・ハンドボールなどですが、皆さんが一番楽しんでいるのが、年二回ある田上素晴らしい踊りに毎回うつとりして先生と生徒さん達による踊りです。

みんなしているのが、年二回ある田上素晴らしい踊りに毎回うつとりして時間も忘れるほどです。今はコロナ感染予防のため、茶話会もやべりや笑いの絶えない楽しいひと時であります。森きみ子

僕が二・三十年後にも残しておきたいこと

坂元台小六年 中原 悠登
僕は家族への感謝の気持ちを残しておきたいです。理由は僕の母と父が、僕を育ててくれました。また、僕をしてくれました。二・三十年後にも色々なことをしてくれたかもしれません。だからこそ二・三十年後には、逆になるかもしれません。しかし二・三十年後には、僕は、遊んでくれたり、もう言いたれたり、僕の家族は色々なことをしてくれました。二・三十年後にも色々なことをしてくれたかもしれません。だからこそ二・三十年後には、僕は、遊んでくれたり、もう言いたれません。僕も、辛くしてしまつた分、恩返しを二・三十年後にして、幸せにしてあげようと思いま

「坂元台小は○○な学校」

六年二組 住本 愛恵
私は坂元台小学校で六年間過ごしてきました。この学校の魅力をたくさん発見しました。
一つ目は、「景色」です。晴れた日には雄大な桜島がとてもきれいに見えます。縁いっぱいの校庭や中庭を受けつけたために、私たちも毎日清掃活動に励んでいます。授業開始と終了のチャイムはウエルナー作曲の「野ばら」で、校歌にはダンスが付いています。学校のCDには、「校歌」と「校歌ダンス」の二曲が入っていました。「あいさつ555作戦」では、児童から先生へ、そして地域の方々へとあいさつの輪が広がりました。四つ目は、「一人一人の努力」です。この学校の児童は、みんな何事にも全力で取り組み、自分の長所を伸ばしています。学校行事にもクラスや学年で一致団結して取り組んでいます。学校生活で、坂元台小は、みんな自慢できることがあります。私たち六年生は、もうすぐ卒業をむかえます。私たちにとって坂元台小は、みんなに恩返しをしたいです。

心は雨のち晴れの研修旅行

小雨降る十一月十一日に、三年ぶりの「親栄ふれあい会」の研修旅行がありました。江口蓬莱館に行くまでの東シナ海を望む海岸線、いつもは青い色の海ですが、この日は雨も降っていたので灰色、しかも風が強く荒波、海岸に打ち寄せる波も白波を立て荒々しく、壯大な景色を見る事が出来ました。

お昼は江口蓬莱館で、新鮮な海鮮料理に舌鼓を打ち満腹に・・・食べ得でした。



松永 隆子

シリーズ「スマホでパチリ」

鹿児島の郷土玩具“オツのコンボ”台所に飾られた大黒（食の神様）はよく見かけますが、その大黒様の奥さんが写真の“オツのコンボ”（鹿児島の言葉で「起き上り小法師」）で、大黒様と並べて供える風習が今もあるようです。毎年新しい物を初市などで家族の数より一つ多く買って帰り、たくさんの家族の幸せ、また、子どもを一人でも多く授かるようにと言う祈りが込められています。



(I-H)

■コロナ退散ぺったんこ■



西坂元町内会 久本 勝紘
よいしょ、こらしょ！師走の某日、チビっ子たちの元気な掛け声が西坂元町公民館に響きました。コロナ感染が小康を得たタイミングを見計らい、元気づけにと町内会が二年ぶりに催した餅つき大会です。

朝から師走とは思えないほど暖かで無風の好天に恵まれました。前日、広報車で前触れをして回ったお陰で子どもたちの出足も好調です。お祭りや小学生など三十人余りが次々にやつて来て、念入りに手を消毒しながら師走とは思えないほど暖かにやつて来て、念入りに手を消毒しながらお祭りを準備万端。石うすに投げ込まれる蒸し米に狙いを定め、コロナ退散の願いを込めて杵（きね）を振るいました。

時ならぬ賑わいに通りがかりの人たちも興味深げでした。しばらく立ち止まつて眺めましたが、やがて昔取った杵柄を、と腕まくりする人も現われます。さらには町外から飛び入りも加わり、予想外の盛り上がりを見せました。先の見通せない疫病との闘いを表していました。

当町内会は年末年始にかけて暗い声には長引くコロナ禍のもと、人々が集まる場と交歓の機会を求めていました。先の見通せない疫病との闘いを表していました。

杵を振るう満面の喜色と大きな掛け声には長引くコロナ禍のもと、人々が集まる場と交歓の機会を求めていました。先の見通せない疫病との闘いを表していました。

杵を振るう